

金の諸相

比較文化・福田真人

金（きん、英:Jin Dynasty、1115年 - 1234年）は、金朝（きんちょう）ともいい、中国北半分を支配した女真族の王朝。

国姓は完顔氏。遼・北宋を滅ぼし、西夏を服属させ、中国南半の南宋と対峙したが、モンゴル帝国（元）に滅ぼされた。都は初め会寧（上京会寧府、現在の黒竜江省）、のち燕京（中都大興府、現在の北京）。

山上憶良（やまのうえ・おくら、660～733年）は、百済からの渡来人か？

「白金も黄金も玉もなにせむに、勝れる宝、子にしかめやも。」

「しろがねも、くがねもたまもなにせむに、まされるたからこにしかめやも」

「銀（しろがね）も金（くがね）も玉も何せむに勝れる宝子に及（し）かめやも」

陸奥国で黄金が出たという詔書を祝賀する歌（大伴家持）

葦原（あしはら）の 瑞穂（みづほ）の国を 天（あま）下り 領
（し）らしめしける 天皇（すめろき）の 神の命（みこと）の 御
代（みよ）重ね 天の日嗣（ひつぎ）と 領らし来る 君の御代御代
敷きませる 四方（よも）の国には 山川を 広み厚みと 奉る 御
調（みつき）宝は 数へ得ず 尽くしもかねつ 然れども 我が大君
（おほきみ）の 諸人を 誘（いぎな）ひたまひ 善き事を 始めた
まひて 黄金（くがね）かも たしけくあらむと 思ほして 陸奥（み
ちのく）の 小田なる山に 黄金ありと 申したまへれ 御心を 明
（あきら）めたまひ 天地（あめつち）の 神（かみ）相（あひ）珍
（うづ）なひ 皇御祖（すめろき）の 御霊（みたま）助けて 遠き
代に かかりし事を 朕（わ）が御世（みよ）に 顕（あらは）して
あれば 食国（をすくに）は 栄えむものと 神ながら 思ほしめし
て 物部（もののふ）の 八十伴（やそとも）の男（を）を 服従（ま
つろへ）の 向きのまにまに 老人（おひひと）も 女童児（おみな
わらは）も 其（し）が願ふ 心足（だら）ひに 撫でたまひ 治め
たまへば 此（ここ）をしも あやに貴（たふと）み 嬉しけく い
よよ思ひて 大伴の 遠つ神祖（かむおや）の その名をば 大来目
主（おほくめぬし）と 負ひ持ちて 仕へし官（つかさ） 海行かば
水浸（つ）く屍 大君の 辺（へ）にこそ死なぬ 顧みは せじと言
（こと）立て 大夫（ますらを）の 清きその名を 古（いにしへ）
よ 今の現（うつつ）に 流さへる 祖（おや）の子等（こども）ぞ
大伴と 佐伯の氏（うち）は 人の祖の 立つる言立（ことだて） 人
の子は 祖の名絶えず 大君に 奉仕（まつろ）ふものと 言ひ継げ

る 言（こと）の職（つかさ）ぞ 梓弓（あづきゆみ） 手に取り持ち
ちて 劍（つるぎ）太刀 腰に取り佩（は）き 朝守り 夕の守りに
大君の 御門（みかど）の守護（まもり） われをきて 人はあらじ
と 彌（いや）立て 思ひし増さる 大君の 御言（みこと）の幸（さ
き）の 聞けば貴（たふと）み

[訳]

葦原の瑞穂の国を、天から降（くだ）ってお治めになられた代々の天皇の、その神の御代を幾代も重ね、天つ神の皇位を継いでこの国をお治めになってきた、その天皇の御代ごとに、治められる四方の国々では、山や川が広く豊かで、献上の宝は数え切れず、あげ尽くすこともできない。けれども、われらの大君が人々を誘われ、大仏建立のすばらしい事業をお始めになり、黄金がはたして十分足りるのかとご心配なさっていたところ、東の国の陸奥の小田にある山に黄金があるとの奏上があり、お心を安んじられた。天の神も地の神もこの事業を良いと思われ、代々の天皇の御霊も私を助けて、遠い御代にあったのと同じこのような事を、私の御世にも願って下さったので、治める国は栄えるものと、神であるままにお思いになり、文武百官を従えてお思いの通りに、また老人や女子どもも、それぞれの願いがかなうまでにつくしみお治めになるので、私たちはますますありがたくうれしく思い、大伴家の遠い祖先、その名を大来目主と呼ばれてお仕えしてきた職柄、海を行くなら水につかる屍、山を行くなら草むす屍となっても、大君のお側でこそ死のう、わが身を顧みるようなまねはするまいと誓い、大夫として潔い名を昔から今まで伝えてきた、その祖先の末なのだ。大伴と佐伯の氏は、祖先の誓いのままに名を絶やさず、大君にお仕えするものと言い継いできた、誓いの家なのだ。梓弓を手に持ち、劍太刀を腰に佩き、朝の警備にも夕方の警備にも、大君の御門をお守りするのは我らをおいて他にないと、さらに誓いを立て、その思いを増す。大君のおことばのありがたさをお聞きすると貴くて。

天皇（すめろき）の御代栄えむと東（あづま）なる陸奥（みちのく）
山に黄金（くがね）花咲く

3893 太宰帥大伴旅人が都に上るときに従った従者(作者未詳)の歌

昨日こそ船出はせしか鯨魚(いさな)とり比治奇(ひぢき)の灘を今日
見つるかも

【現代語訳】

きのう船出をして、今日はもう比治奇の灘までやって来ましたねえ。

(注)鯨魚とり …… 「灘」の枕詞。